

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム・椀内

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・椀内		
所在地	〒027-0331 岩手県宮古市田老字西向山119-16		
自己評価作成日	令和7年8月10日	評価結果市町村受理日	令和7年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台にあり津波、洪水など自然災害などに強く法人施設の避難場所になっている。利用者様には安心して、ゆったりと過ごすことの出来る空間や雰囲気づくりに心掛けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年8月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内中心部から車で15分程度北上した田老地域の南側に位置する海岸線を一望できる高台にあり、東日本大震災の後には応急仮設住宅が建てられた経緯がある。災害に強い立地ということで、同一法人のグループホームの避難場所になっている。建物は2階建てで1階の共有スペースが吹き抜けとなっており、広々とした空間は明るく、夏涼しく冬暖かい。法人内の事業所とは研修や職員会議、イベントを合同で開催しており、行事の目的以外に情報交換の機会にもなっている。食事は昼、夕が冷食に切り替わっているが、利用者が食べやすい様に刻みやとろみをつけたりと手を加えている。重度化や看取りについても受け入れる姿勢を示しており、リフト浴の機器のほかストレッチャー浴のための機器を準備している。現在の職員には看取りの経験者が少ないため、今後すべての職員を対象に研修や看取りの不安等を話し合いながら準備をしていく考えでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者一人ひとりの心に寄り添い安心して、楽しく過ごせる環境の努め、サービスを提供している。	法人の理念「ひとりの心を見つめるケア」を開設時に事業所の理念とした。数年後にその具体化のため、利用者の尊重、家庭的でくつろげる場所を目指す、介護技術の向上、明るい職場環境の4つの基本方針を追加している。入居前の生活歴等を細やかに把握し、生きてきた時代背景、趣味、食べ物の好み等の理解に努め、利用者の思いを聴きながら、利用者個々の希望をできる限り叶える支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議などで地域の情報を、利用者含め交流している。	町内会加入については相談したが加入に至っていない。以前近くに建てられていた仮設住宅が撤去され人通りも少なくなり、散歩する人も限られてきている。運営推進会議の委員である中学校長からボランティア受け入れの照会があり、了承している。地域の文化祭には利用者の書道作品を出展し、見学にも出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	福祉センター文化祭見学。利用者の書道作品を出品したこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の会議であり、利用者の状況報告等をおこなっている。地域の方々からのアドバイスや情報をいただいている。	運営推進会議は、民生委員、地元の小・中・高校、警察、消防、福祉事業所の他、近隣のグループホーム、訪問看護師、地域包括支援センター、市担当者で構成されている。利用者が過ごすフロアで会議を行い、委員に利用者の様子を見ていただいている。利用者の手作りの団子等のおやつを準備し、利用者が委員におやつを配るお手伝いをしている。事業所からの報告に加え、消防や市から新型コロナウイルス感染症や山火事への注意喚起、近隣のグループホームとは活動内容の情報交換などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加している方にアドバイスをいただいている。	市の担当者は、運営推進会議に毎回出席し、情報提供を受けている。日頃から制度改正や感染症情報等のお知らせがあり、その内容を職員で共有している。ケアマネジャーが週に1度は事務連絡等で窓口を訪れ、相談しやすい関係性を築いている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はおこなわないケアを徹底している。	身体拘束や虐待に関する研修を法人内の2事業所合同で年2回開催し、理解に努めている。「ちょっと待つて」というスピーチロックについては、何故だめなのかを論理的に考える場を設け、冷静に現状を分析し適切な対応について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3ヶ月に1度の2つの施設で話し合いをおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月の職員会議の中で内部研修会をおこないつつながら学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の内容に目を通していただき、説明をし、その後に署名していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月ご家族様へのお手紙に、利用者の様子をお伝えし、ご要望等あれば対応している。	面会時や電話で、家族から通院時の送迎や外出時の食事について相談を受け、家族の不安を取り除くよう対応している。毎月、利用者の状況変化や普段の様子を写真を添えて家族にお知らせしている。家族の面会は玄関先で行っており、その際に日頃の状況等を説明するとともに、物品等の補充についてお願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案を受け入れ、常に改善するよう努めている。	毎月、法人の代表が参加する職員会議を二つの事業所合同で開催し、利用者への対応についての検討や運営推進会議の報告を行っている。職員数の改善要望は、法人として対応している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員への休息も常に考え職員の能力や希望に応じた勤務体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナの状況を見ながら職員への外部研修など積極的に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地区の他グループホームへの運営推進会議へ参加する体制をとっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	常に利用者寄り添い、利用者の立場になり傾聴し不安を与えないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者の声掛けに常に寄り添うように話し、利用者を尊重しながら信頼関係を保っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	信頼と傾聴を常に意識し共に良好な関係を築けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者と共に余暇活動に取り組み、同じ目線で利用者との関りをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族へ月に1度のお手紙を作成し、日々の様子を伝え、本にの要望等は常に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の好きな物や、食べ物等。	利用者の大切な人やもの、好物について、会話や家族からの情報で把握し、支援に役立っている。お盆を自宅で過ごしたいという方の希望を叶えるため、家族の不安を取り除く細やかな情報提供を行い、実現に繋げている。携帯電話を使用する利用者もあり、家族との交流に役立っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ホールで気の合った利用者同士が近くにいるように配置し、会話がしやすいように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した家族に電話連絡をし、最近の様子をお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から、その利用者の希望を聞き出し、可能な限り希望にそえるようにしている。	自分の言葉で思いを伝えることができる利用者は3、4名である。それ以外の方は表情、しぐさを確認しながら、選択肢を示して意向を確認している。食べたい物を話される方は少ないが、出されたものは美味しそうに食べている。誕生日のプレゼントは、利用者が欲しいものにしようと職員間で検討し準備している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	野菜作りの経験のある利用者から、アドバイスをいただき畑で野菜作りを楽しんでいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の立位や立位保持の状態を観察、職員間で情報提供し心身の変化に対応できるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーが関係者からの情報収集と実施状況の把握をし作成している。	ケアマネジャーが利用者の生活状況を確認し、介護計画を作成して本人に説明している。担当者の意見、日々の実践記録等から利用者の生活状況等を把握し、介護計画に利用者の思いを反映させている。家族の意見等は電話で伺うことが多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の利用者の状態を記録し、職員間で共有、日々のケアや介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族からの、今から訪問したい等の希望にも応じられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	畑で野菜を育てたり、近所の散歩をして花や海を見て楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	感染対策の為、処方薬を多めにだしてもらいながら、現在の状況を記録を基にお話している。	ほとんどの利用者が地元の医療機関を主治医としている。定期受診は基本的には事業所に対応している。医療機関で待ち合わせし、家族が診察に付き添う場合もある。診察の結果については、電話やお便りで家族に報告している。週に1回訪問看護師が来訪して利用者の健康状態の把握に努めており、心配事も相談できる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護によるケアが週に1度おこなわれている。健康管理や、皮膚状態等を観察、処置してもらっている。		

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後に帰所可能な場合には居室を確保している。その際には利用者の状態把握をし、適切なケアをおこなうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	一般的にグループホームでの看取りは形式が確立しておらず、事業所独自の形式を行政が指導している。	看取り介護は実施しているが、ここ2年間は行われていない。「重度化した場合の(看取り)指針」を作成し、入居時に家族に説明している。リフト浴の機器を設置しており、ストレッチャー浴の機器についても準備している。看取り介護の経験のないスタッフが増えていることから、今後研修の充実を図りたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問看護師に相談し、指示をもらい対応をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施。	事業所は高台に位置し、同一法人のグループホームの避難場所となっている。年に2回、火災避難訓練を実施し、夜間想定訓練も取り入れている。夜勤は1人体制だが、宿直が配置されている日が多く、火災時には協力して避難支援に当たることになっている。車椅子利用者が6名おり、その迅速な避難の方法や外に避難した利用者の見守りについても、支援者に相談していると考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者に合わせた対応を実施している。	利用者の出来る事を尊重し、洗濯物たたみや食器拭き等のできる事を行ってもらい、見守りしながら支援している。排泄時職員はドアの外で見守り、失敗がある時はトイレの中で交換をお手伝いしている。リハビリパンツ等を隠す方には、直接指摘しないで職員が掃除の際にそっと処分している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を聞き、出来る限り希望に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のことを考え、個人にあったペースでの生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時の着替え等、本人が希望した衣類を選ぶようにしている。施設に床屋さんが来所され散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好き嫌いに配慮し、食事を提供している。	昼食、夕食は冷凍食品を活用しているが、利用者の状況に合わせて、刻み、トロミ等の対応をして提供している。食事はほぼ完食の状況である。利用者は、ちらし寿司の混ぜ込み、団子粉をこねる、お盆や食器の拭き取り等を職員と一緒にやっている。食事介助が必要な方もおり、少しでも多く召し上がっていただけるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取の声掛けに努めている。食事の摂取量が少ない利用者には、キザミ食、おかゆ等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者には、それぞれの残存機能を活かした対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	時間を見ながら声掛けをし、トイレ誘導をおこなっている。利用者に合わせて必要に応じたオムツ等を使用している。	オムツ使用の方は1名、他の方はリハビリパンツを使用しトイレで排泄している。尿意の訴えない方には、排泄チェック表を活用し、さりげない声かけで誘導している。排泄前後の更衣はトイレ内で介助を行っている。3名が夜間自室にポータブルトイレを配置し、使用している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・樫内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の他、午前、午後に水分補給をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴前に体調確認をおこない、利用者の意思や気持ちを尊重した介助を心掛けている。また、それぞれの残存機能を活かした支援を心掛けている。	毎日午前中の入浴となっており、利用者は週2回を目途に入浴している。入浴拒否があった場合には、無理強いせずに翌日に再度声かけしている。6名がリフト浴を利用し、安全で快適な入浴を提供している。浴槽にアヒルの人形を浮かべたり、職員とおしゃべりや音楽を楽しみながら、雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ホールでの過ごし方や、その時の利用者の体調の変化に注意し、状況に応じて対応している。入床時には褥瘡予防の為に、体位交換を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の周知と、誤薬防止の為に、職員間で確認、声かけをしながら、管理、服薬の支援をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節ごとの行事の際は、利用者の身体機能にに応じ、役割を担っていただき、行事を通して楽しい時間を過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日に、お花を見たり海を見たりできる様支援している。また家族と協力して出かけられるよう支援している。	コロナ禍以降、利用者の外出は、月に1回程度の事業所周圍の散歩、春の花見や山菜採り、通院に留まっている。受診後に道の駅に立ち寄り缶コーヒーを楽しみにしている利用者もいる。お盆に自宅に戻ったり、家族と外出する際には、身体状況等について情報交換しながら安全に外出できるよう配慮している。	二つのグループホーム合同で餅つきをした時の利用者の笑顔や、ドライブ時の利用者の良い表情を職員は大切にしたいと考えている。気分転換や五感の刺激のためにも、外出機会の確保に向けた具体的な取り組みが期待される。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族から金銭を預かり、各利用者の希望に応じて買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	携帯電話を持っている利用者は、都度家族との会話を楽しんでいる。利用者の日常の生活の様子を、手紙にし送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設内の雰囲気明るくすることを心掛け、写真の掲載や飾りつけのレイアウトをおこなっている。	1階の共有スペースは吹き抜けとなっており、明るく、開放感がある。テレビを2カ所に用意し、その前に大きめのテーブルを配置して、利用者の関係性を配慮して席を決めている。利用者は塗り絵等の作業やテレビ鑑賞、談笑している。壁には利用者の書道の作品や多くの写真が飾られており、楽しい雰囲気が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者が居室で過ごした時には希望通りに配慮している。利用所の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や、使い慣れたものを居室に置き、本人が安心して過ごせるように努めている。	居室には、タンス、ハンガーラック、ベッド、パネルヒーターが備え付けられている。家族がコメントを入れた利用者の若い頃からのミニアルバムを持ち込んでいる方がおり、嬉しそうな表情で見る姿が目につく。夜間不穏になる方には、落ち着いて過ごせるようにベッドサイドにぬいぐるみを置いたりと試行錯誤中である。自宅で使っていたポータブルトイレの持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者のそれぞれの居室扉に、名前入りの写真を貼り、ご自身の部屋だと認識して安心して過ごせるようにしている。		